

吉井川流域の自然を活用した観光と教育

～ビオトープとジオパークの学びを通して～

ビオトープ班 岡山県立和気閑谷高等学校1年 大饗、則次、原田

閑谷學（総合的な探究の時間）

1 背景

【これまでの先輩たちの取り組み(ビオトープ)】

- ・土のう作成 ・閑谷学校のカナダモ駆除
- ・自然保護センターの視察
- ・ビオトープ周囲の環境整備

【私たちが引き継いだ活動】

- ・生態系の調査
- ・水温調整の計画実施
- ・定期的な旧閑谷学校のオオカナダモ駆除

3 これまでの取り組み①

☆校内にビオトープ



写真1 先輩から引きついだビオトープ

☆岡山自然保護センターで研修



写真2 センターの方による研修の様子

☆金剛川での生物観察



写真3 学校近くの金剛川で生物観察

2 目的

◎学校が吉井川周辺に位置することを活用して、広く自然に親しみ、生態、地質に関する学びを通じて環境について考える。

◎地域の豊かな自然を観光や次世代教育に活用・発信するために、生態や地質についての知識を高める。

4 これまでの取り組み②

☆ジオパーク

岡山県と赤磐市の取り組み例

【2016年】NPO法人地球年代学ネットワーク(jGnet)と赤磐市との連携協定

地球史研究所の設立(赤磐市周匝)

【2017年】NPO法人地球年代学ネットワーク(jGnet)と岡山県備前県民局協働提案事業

ガイド向けマニュアルの作成



☆和気富士

白亜紀の和気カルデラが長い年月をかけて侵食その痕跡を町内で観察することができる。

写真4 和気富士

5 今後の予定

・学校内のビオトープの生物調査

・和気カルデラの痕跡を探る

・吉井川流域の自然を生かした観光、学校教育への活用を自分たちの活動をSNSに発信させることで地域の活性化につなげる。